

2014年夏のエルニーニョはなぜ成長しなかったか？ - 南太平洋からの寄与 What interrupted the 2014 El Nino? - A possible cause in the South Pacific Ocean

今田 由紀子^{1*}; 建部 洋晶³; 渡部 雅浩²; 石井 正好¹; 木本 昌秀²

IMADA, Yukiko^{1*}; TATEBE, Hiroaki³; WATANABE, Masahiro²; ISHII, Masayoshi¹; KIMOTO, Masahide²

¹ 気象庁気象研究所, ² 海洋研究開発機構, ³ 東京大学大気海洋研究所

¹ Meteorological Research Institute, Japan Meteorological Agency, ² Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology,

³ Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo

2014年の初頭、各国の気象機関による季節予測は、引き続き夏以降に本格的なエルニーニョが発生することを予測していたが、その後冷舌付近で冷水偏差が発達し、エルニーニョの発達を妨げる結果となった。この冷水偏差がどのようなプロセスで張り出して来たのかは明らかになっていないが、大気海洋結合モデル MIROC5.0 によるハインドキャストでは、2013年11月初期値の予測においてこの冷水偏差の発達を予測することに成功しており、エルニーニョが発達できないことを示していた。この予測ケースをもとに感度実験等を実施した結果、近年持続している太平洋十年規模変動の負位相に伴う南半球の偏差が今年のケースに寄与していたことが示唆された。

キーワード: エルニーニョ・南方振動, 季節予測, 太平洋10年規模変動

Keywords: ENSO, Seasonal Prediction, Pacific Decadal Oscillation (PDO)